

樹体酸度と要素の相互作用

樹態酸度

分化生長と肥大生長

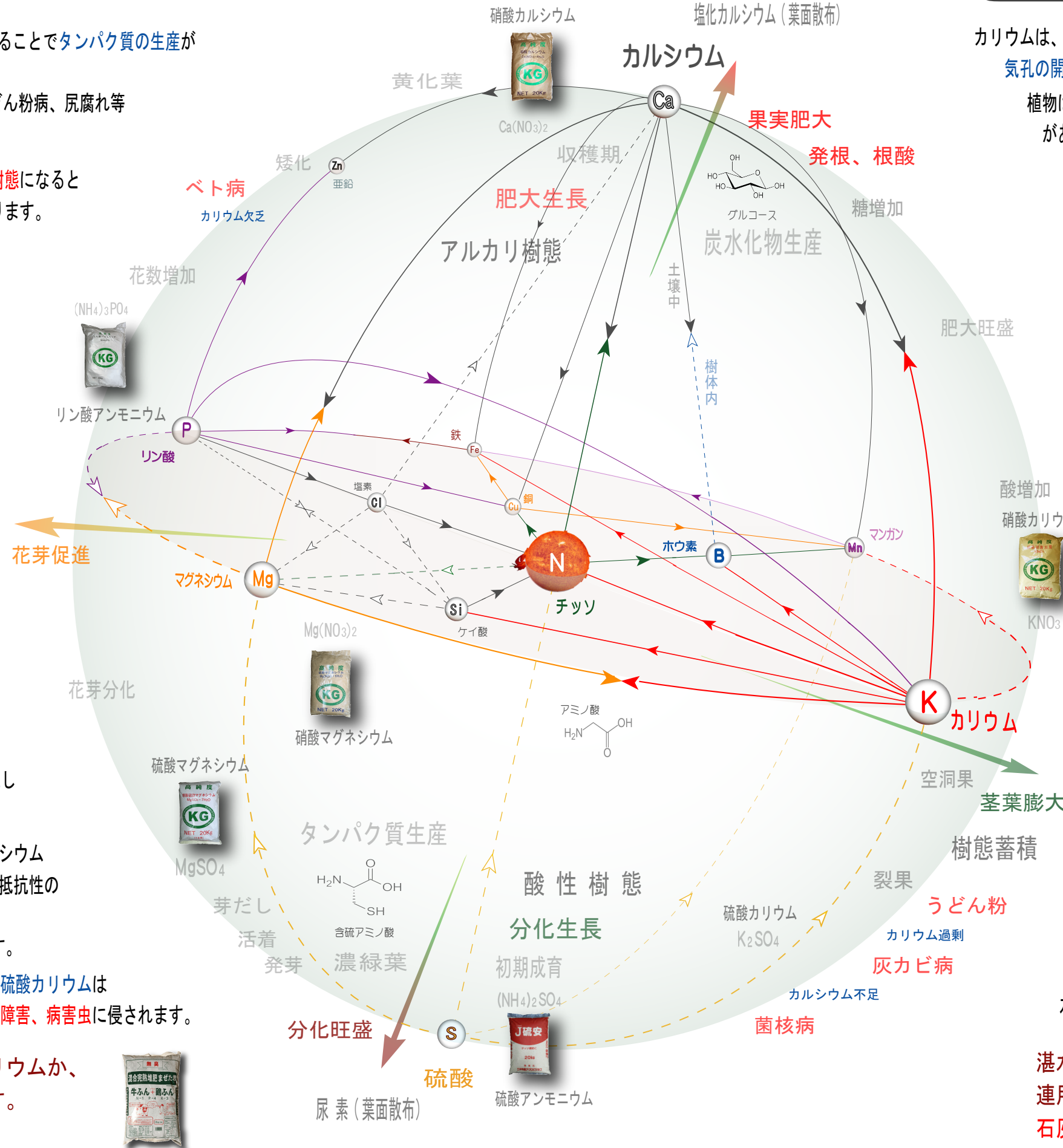
樹態内で**硫酸根** (SO_4) が優勢になり**酸性樹態**になることで**タンパク質の生産**が盛んになり**茎葉の分化**、**成長が優勢**になります。

反面、葉色が濃緑化し果実の肥大が悪くなり、うどん粉病、尻腐れ等**病害虫に侵されやすくなります。**(分化生長)

樹態内で**カルシウム** (Ca) が優勢になり**アルカリ樹態**になると**糖の生産**が盛んになり**根、果実の肥大が優勢**になります。

反面、茎葉の生育が抑制され生長点や脇芽の成長が抑制され**葉色が黄化**します。(肥大生長)

初期成育中は酸性樹態に
果実肥大期にアルカリ樹態
に誘導します。



樹態蓄積

カリウムの贅沢吸収

カリウムは、3大要素ですが、植物体の構成要素ではなく**浸透圧維持**
気孔の開閉、**酵素作用の調整**をしています。

植物は、曇天への備えとしてカリウムを樹態内に蓄積する能力
があり樹態内の**塩基バランス**を積極的に**カリ過剰**にします。

カリウムの**樹態蓄積過剰**は、植物細胞を肥大化し
細胞壁が薄くなることで、外的損傷に弱くなり
病害虫への抵抗性を失います。

カリウムを最低限投入し
蓄積カリウムを減らすこと
をお勧めします。

連作障害

有機物の過剰投入

ハウス栽培では連作障害が発生していますが
が**木質残渣**、**作物残渣**の蓄積が一因です。

畑作状態でリグニンを半減するには、数十年
の歳月が必要となり、連作での蓄積で**炭素過剰**に
なり、その分解のために**酸素不足**になります。

肥料の過剰投入も一因ですが、降雨の溶脱の起き易い
露地栽培では連作障害は起き難く、還元状態で栽培する
水田では、**有史以来連作障害はありません。**

湛水できない畑作物には、唯一“**石灰窒素**”の
連用が蓄積残根、未熟有機物を処理します。
石灰窒素は硝酸になりにくい緩効性窒素です。